

# 令和4年ホヤ類調査結果速報 No. 4

令和4年10月24日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

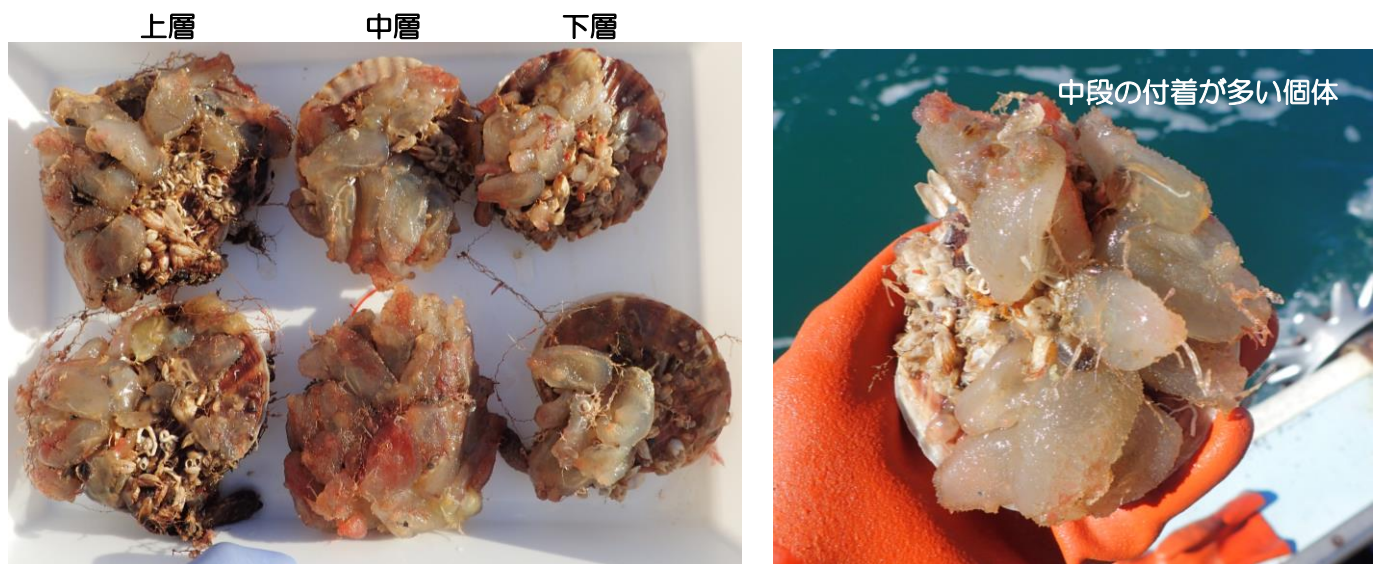
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

10月13日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

## 結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は、9月から横ばいでした。平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり24.3個体で、過去10ヶ年の平均の7割でした。
- 平均付着重量は過去10ヶ年平均の7割でした。
- 5mm未満の微小な個体はほとんど見つからず、耳吊りホタテガイに新たに付着する個体は非常に少ないと考えられます。
- 昨年よりも付着が多く、サイズも大きいので、今後の増重が早い見込みです。状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和4年10月13日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和4年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

# 耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：10月13日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり24.3個体(過去10ヶ年の平均32.3個体)、平均付着重量は同46.9g(同65.0g)でした。付着数は前回調査(24.0個体)から横ばいでした。また、平均サイズは23.2mm(過去10ヶ年の平均24.9mm)と平年よりもやや小さめでした(表1、図2)。なお、5mm未満の最近新たに付着したとみられる個体はほとんど確認されませんでした。

今年の付着数は昨年より2倍以上で、40mm以上の比較的大きな個体も出現しており、今後の増重は昨年よりも早いと見込まれます。また、出荷時期(12~4月)にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイの重量を上回り、成長にも悪影響となりますので、状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和4年10月13日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	119.7g	85.0g	47.0g	83.9g
ヨーロッパザラボヤ	52.3g	57.8g	30.6g	46.9g
その他	67.4g	27.2g	16.4g	37.0g
ヨーロッパザラボヤ個体数	21.8個体	23.0個体	28.2個体	24.3個体
令和3年10月(R3.10.12)の個体数	5.6個体	12.4個体	15.2個体	11.1個体
令和2年10月(R2.10.16)の個体数	35.6個体	42.2個体	17.8個体	31.9個体
令和元年10月(R1.10.17)の個体数	41.8個体	64.8個体	37.6個体	48.1個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：令和4年6~10月)

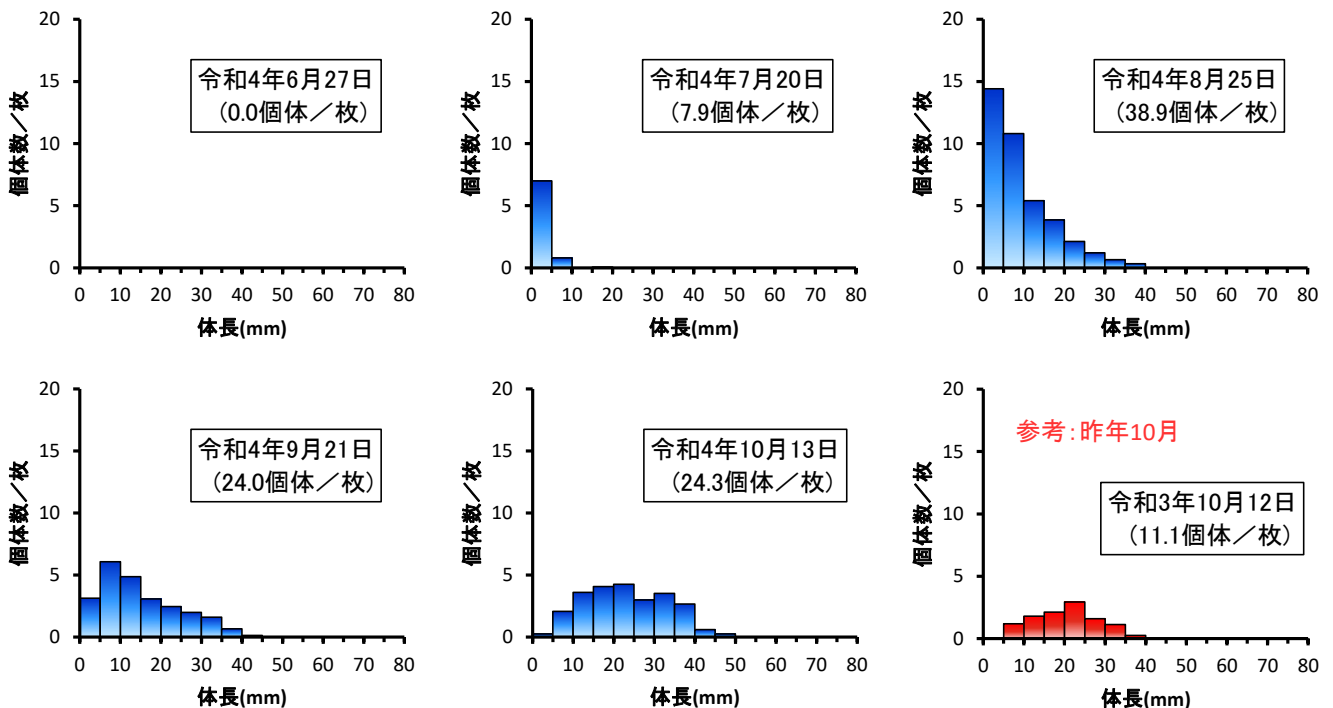
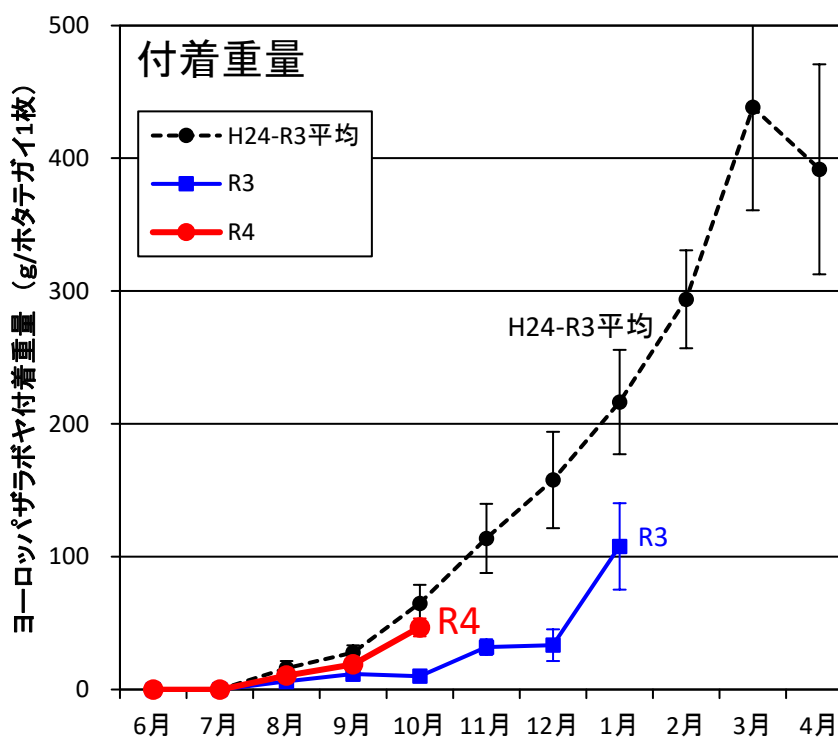
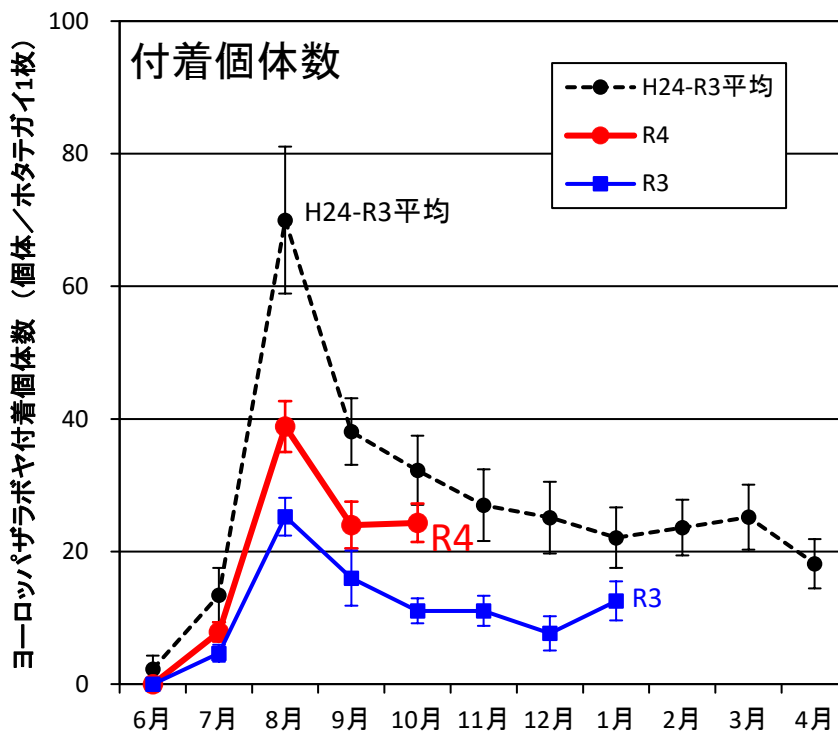


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化  
 下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化  
 各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。  
 過去10ヶ年（H24～R3年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着個体数は7～8月に大きく増加し、8～9月に大きく減少した後、10月以降は緩やかに減少します。付着重量は10月以降、急激に増加します。